

南部中学校総括評価表 (No1) 平成29年度末

		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
1学校運営	①教育目標・教育方針の教職員、生徒、保護者への周知徹底 ②教職員の資質の向上 ③保護者・地域への情報発信	評価指標	評価指標の達成度	Aは80%以上 Bは60%以上 Cは60%未満	総合評定	学年だより、保健だより、給食だよりを定期的に計11回ずつ発行するなど積極的な情報発信がよい。HPに掲載し、常に確認できるのもよい方法である。 連絡メールの活用も時代に合った対応である。
		①わかりやすいとする保護者 ②資質向上に取り組んでいる教員 ③学校は情報発信していると考える保護者	① A ② A ③ A			
		活動計画	活動計画の実施状況		(所見)	メンター制による校内研修を年7回行い、熱心な取組が行われている。資質向上に取り組む教員の意識を大切にしていこう。
		①PTA総会や学校行事等での教育目標・教育方針の説明・周知と各種たよりやHPの活用 ②昨年度の調査研究事業の成果を取り入れた授業改善の取組 ③連絡メールやHP更新など迅速な情報発信	①PTA総会と学校行事での説明と、各種たよりとHPを充実させ、周知と理解に努めた。 ②-1メンター制を取り入れた校内研修を年7回実施 ②-2掲示物の工夫による授業等の取組の「みえる化」 ③気象警報発表時等に連絡メールを活用		昨年度の調査研究事業の実績を活用して校内研修を活性化し、教職員の資質向上に努めた。	これまでの2年間のメンター制による資質向上研修を継承し、若手教員にも中堅ベテラン教員にも有益な校内研修に取り組む。
2学力向上・教科指導	①学習意欲の向上と学習習慣の確立 ②授業力向上の工夫・充実 ③家庭学習の定着	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B  (所見) 基礎基本の定着に向けて様々な取組が行われた。授業中質問をする生徒の割合は少なく、言語活動を意図的に設定する授業が必要である。	TT指導による個に応じた対応を今後も継続してほしい。	学力向上検討委員会で本校の課題を見つけ、解決への実行プランを作成し、職員全体の方向性を整える。年間を通じて取り組むテーマを設定し、教科単位や学級・学年単位で取り組む。  個に応じた対応をさらに工夫していく。年間2回の「授業相互見学期間」を積極的に活用し、自己の授業力の向上に努める。
		①-1教員が工夫して授業を進めていると考える生徒 ①-2授業中に質問をしている生徒 ② 授業力の向上に努めている教員 ③-1家庭学習を行っている生徒 ③-2家庭学習の時間増の工夫をしている教員	①-1 A ①-2 C ② A ③-1 B ③-2 B			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1学力向上検討委員会における実行プランの作成 ①-2TT指導の充実 ②-1教科サポートチームの活動を通して研修に取り組む。 ②-2朝読書の推進  ③-1宿題等の工夫及びその点検  ③-2放課後学習の実施	①-1学習の手引きを継続使用し、効率的な学習指導を実施 ①-2 TT指導による基礎的基本的な内容の定着 ②-1メンター制等による教師力向上研修に年7回取り組んだ。 ②-21、2年生で、朝読書を実施 ③-1宿題等の課題の工夫と点検、長期休業中の課題とそれに基づく確認テストを実施 ③-2 放課後の補充学習を計画的に実施			
3生徒指導・交通指導	① 基本的な生活習慣の定着 ②-1 生徒理解と相談体制の充実 ②-2 いじめ防止対策 ③ 交通指導の充実	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A  (所見) 生徒がいじめを相談できる環境をつくり「いじめは許さない」という意識を高め、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。	9割以上の生徒が、きちんと生活していると考えていることが素晴らしい。  いじめ防止の生活アンケート調査を年5回実施していることは評価できる。今後もぜひ継続してほしい。  交通安全指導には今後も力を入れてほしい。命に関わる大切なこと。保護者への啓発も必要である。	全ての教職員が「いじめを許さない」という強い決意をもって安全と安心のために取り組む。 自転車通学に対する安全教育の徹底のために、小学6年生保護者対象の入学説明会で注意箇所を説明し、通学路についての安全意識を高める。 1年生対象の安全教室をできるだけ早い時期に実施する。
		① 遅刻せずに登校する生徒 ②-1教員が適切に指導しているとする保護者 ②-2いじめは絶対に許さないとする教員 ②-3いじめ問題を相談しやすいとする生徒 ③-1交通ルールを守っている生徒 ③-2交通ルールを指導する教員	① A ②-1 A ②-2 A ②-3 B ③-1 A ③-2 B			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①チャイム着席・交通立哨指導 ②-1相談体制の確立 ②-2いじめ問題等対策委員会を活かした校内体制の確立  ③計画的な安全教育への取り組み	①朝と休み時間の巡視を実施 ②-1SCを中心とした相談活動と随時家庭訪問実施 ②-2学校いじめ防止基本方針に基づくいじめ問題等対策委員会において年5回アンケート調査を実施 ③交通安全教室と適宜登下校時の立哨指導を実施			
4保健指導・給食指導・環境美化	①保健指導の徹底 ②給食指導の徹底 ③環境美化の推進	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A  (所見) 基本的な生活習慣の定着ができています。「食育だより」を発行したことで、生徒だけでなく保護者にも啓発となった。清掃活動に対する意識は生徒教員ともに非常に高く大切にしていきたい活動である。	地道に活動を続けることで成果が上がっている。  NVC委員会の本校の活動が今後も継続してほしい。	基本的な生活習慣を身に付ける「知識・理解・実践できる力」を育成する。栄養教諭や養護教諭との連携を進め、自己の心身の健康について考える行事や授業を一層展開する。 清掃活動に対する高い意識を持ち続け、時間いっぱい清掃できる生徒を育てる。教室や廊下の掲示物についても生徒が関わるようにし、「自分たちの教室・自分たちの環境」の手立てをする。
		①-1健康に気をつけている生徒 ①-2健康に生活できるよう指導する教員 ②-1食生活に関心を持っている生徒 ②-2食生活を見直すよう指導する教員 ③-1清掃活動に積極的な生徒 ③-2清掃指導ができていていると考える教員	①-1 B ①-2 A ②-1 B ②-2 B ③-1 A ③-2 A			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①保健指導計画の立案と学校保健委員会の開催  ②給食指導計画の立案と給食時間の指導  ③-1清掃担当者による清掃計画の立案と清掃指導  ③-2 NVC委員会による定期的な活動	①歯科医によるブラッシング指導の実施、毎月の保健だよりと学校保健委員会を開催 ②-1全教職員で給食時間の指導と「食育タイム」の充実 ②-2食育授業の実施と「食育だより」の発行 ③-1清掃担当者による清掃強化週間の立案と全教職員による清掃指導を実施 ③-2 NVC委員会による活動の実施			

南部中学校総括評価表 (No2) 平成29年度末

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評定		
5図書館教育・キャリア教育・ 生徒会活動	①図書館の積極的な活用 ②進路指導の充実 ③生徒会活動の活性化	評価指標	評価指標の達成度	総合評定  (評定)  B  (所見) 生徒は生徒会活動や専門委員会の活動に積極的に取り組む生徒が次第に増えてきている。コミュニケーション能力向上のための取り組みを重視し、主体的な活動になるように工夫する。	図書室だよりの中に「お薦めの本」を紹介するなど地道な取組は評価できるが、生徒の読書離れ傾向の対策として図書室の改装や新たな種類の本の購入といった思い切った対策も必要ではないだろうか。	図書委員会活動を活性化する。「図書室だより」を継続して発行し、開館日程の広報に努め、図書室利用の機会を増やす。  職場体験学習の場所の確保に努め、進路指導や自分の生き方を振り返る機会に位置づけていく。 生徒会活動や専門委員会活動に全職員が積極的に関わられるように体制を見直す。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1授業で図書室を活用する教員 ①-2年間10冊以上本を読む生徒 ②-1将来の職業に関心がある生徒 ②-2継続的な進路指導をしている教員 ③-1生徒会行事等に積極的な生徒 ③-2専門委員会が充実していると考える教員	①-1 A ①-2 C ②-1 B ②-2 A ③-1 B ③-2 B			
		①授業での活用の推進と図書室の定期的な開館 ②3年間を見通した進路指導計画的計画の立案と職場体験活動の立案・実施 ③生徒会活動の見直し	①昼休みと放課後に図書室の開館を実施 ②発達段階に応じた指導計画にそって実施。3年は春に職場体験活動を実施 ③-1月1回専門員会で自主的な活動を実施 ③-2生徒会活動の主力となる本部役員の育成			
6人権教育・道徳教育・特別支援教育	①人権教育の推進 ②道徳教育の推進 ③特別支援教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	(評定)  A  (所見) 自尊感情や自己肯定感をいっそう高められるよう、教師が生徒に自信を持たせたり自分の良さに気づいたりする活動を取り入れるよう工夫する。	人権新聞の発行や人権劇の取組はすばらしい。  校区内小学校との連携を継続し、個別のニーズや支援について今後も取り組んでほしい。	自尊感情や自己肯定感が高められるよう、生徒に自信を持たせたり、自分のよさに気づいたりする活動を様々な場で今後さらに工夫していく。 道徳の教科化を見据えた授業研究や校内研修を実施する。特別支援教育に関する研修の機会を作る。ネットモラルについて、教職員が研修するとともに、生徒や保護者への啓発の場も増やしていく。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1学校に来るのが楽しい生徒 ①-2温かい言葉がけをしている教員 ②私には良いところがあると考える生徒 ③-1友だちの良さを見つけている生徒 ③-2支援の必要な生徒を把握している教員	①-1 B ①-2 A ② B ③-1 A ③-2 A			
		①人権教育主事を中心に人権教育の立案  ②道徳教育推進教師を中心に活動計画を立案  ③-2入学前を含めて年間4回の教育相談を実施して、特別な支援を必要とする生徒のニーズに応じた支援に努める。	①人権教育主事を中心に活動計画に基づいて活動（PTA 人推部と連携して人権劇等）を実施 ②道徳教育推進教師を中心に学年の活動計画に基づいて研修を実施 ③-2 校区内小学校支援学級との連携を強化し、参観授業や個別のニーズや支援について面談数増			

「評定」の基準 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:達成できなかった